

日向市地域公共交通計画：評価指標の達成状況一覧（令和5年4月～令和7年3月）

計画目標	評価指標	定義	目標値 (R9)	基準値 (R3)	R4年度	R5年度	R6年度	判定基準	調査方法	評価・次年度に向けた課題や取組み	備考
①誰もが利用しやすく、コンパクトな公共交通ネットワークの実現	公共交通利用者数	日向市駅の乗車人員	1,300人/日	1,079人/日	1,168人/日	1,215人/日	1,279人/日	↑	九州旅客鉄道（株）公表の交通・営業データより	JR九州と連携し、市民バスとの乗り継ぎ利便性の向上を検討し、引き続き鉄道利用促進を図る。	
		路線バス利用者数	113,100人/年	113,076人/年	106,751人/年	105,893人/年	110,636人/年	↑	宮崎交通公表データより	日向入郷方面の人口減少が著しく利用者数は減少傾向となっていることに加え、乗務員不足が深刻な課題となっている。沿線市町村と連携し、利用周知や欠損額の補助を継続することで路線の維持を図る。	
		市民バス利用者数	81,100人/年	64,038人/年	66,204人/年	64,562人/年	64,546人/年	↓	日向市公表データより	令和8年度から定時定路線とは異なる交通体系のAIオンデマンドバスの本格導入を予定しており、停留所増やアプリ予約など利便性の向上を図ることで利用者数増を目指す。	※総合計画の見直しにより、目標値の見直しを検討
	交通結節点の機能整備	市内4駅のうち、市民バスが乗り入れを行っている駅数	4か所	3か所 (日向市駅、南日向駅、美々津駅)	3か所	3か所	3か所	—	日向市公表データより	AIオンデマンドバスの導入に合わせて、これまでのコミュニティバスでは経由しなかった財光寺駅にもバス停を設置する予定である。	
	収支率	市民バスの収支率	20%以上	17.0%	17.7%	16.4%	15.7%	↓	市民バスに係る年間収支率 (運賃収入÷運行経費)より	利便性の高いAIオンデマンドバスを導入することで利用者の増加を図るとともに、運賃引き上げ・乗換え割引き廃止・バス停名称による広告収入等による収入増により、収支率の改善に努める。	
	財政負担額	市民バス運行に係る利用者1人当たりの財政負担額	620円/人	719円/人	669円/人	741円/人	771.0円/人	↓	市民バス運行に係る利用者1人当たりの財政負担額 (運行経費÷市民バス利用者数)より	利便性の高いAIオンデマンドバスを導入することで利用者の増加を図るとともに、運賃引き上げ・乗換え割引き廃止・バス停名称による広告収入等による収入増により、財政負担額の改善に努める。	
②地域輸送資源の相互連携による汎用性の高い公共交通サービスの実現	移動困難者の割合	市民アンケートにおける外出時に困っている人の割合	5.0%未満	8.5%	アンケート調査未実施	アンケート調査未実施	アンケート調査未実施	—	市民アンケート調査より	令和7年度にアンケート調査を実施。	※令和7年度実施の市民アンケート調査より、外出時に困っている人の割合は7.2%
③他のまちづくり分野との連携による魅力的な交通環境の実現	他のまちづくり分野との連携	観光や商業等と連携した取り組み	1件以上	—	—	1件	1件	○	日向市公表データより	鉄道事業と連携した観光客事業による公共交通の利用促進を図る。	
④市民・交通事業者・行政等の協働による持続可能な仕組みの実現	利用促進策の取り組み	バスの乗り方教室や出前講座等、モビリティマネジメント施策の取り組み	8回	3回	・市民バスの紹介チラシの配布：12回 ・スマホ教室でのバスの乗り方説明会：8回 ・バス乗り方講座：1回	・市民バスの紹介チラシの配布：12回 ・スマホ教室でのバスの乗り方説明会：25回 ・バス出前講座：1回	・市民バスの紹介チラシの配布：12回 ・スマホ教室でのバスの乗り方説明会：6回	○	日向市公表データより	令和7年度から実証運行を行うAIオンデマンド交通のスマートフォンからの予約方法の周知などをを行い、利用者の定着を図る。	
	新たな交通システムの導入	デマンド交通等、新たな交通システムの導入地域	1地域	—	—	—	—	—	日向市公表データより	令和7年度からAIオンデマンドバスの実証運行を開始し、令和8年度に本格導入予定。	

【評価の考え方】

○	達成
↗	目標値に近づいている
↘	目標値から遠ざかっている
—	評価不能・検討段階